

## 開港20周年の課題

東京でポートセールズを終えたその足で、本店所在地のソウルに行ってきた。わずか2時間の空路、海上物流の臨戦場となることになすける。トップセールズは、重要港湾都市にとってまちづくりと直結するだけに、おろそかにはできない。まして、日本海物流は地方都市とアジアを結ぶ旺盛なラインであつて、船会社にとつても激戦区である。▼石狩湾新港は金山航路開設16年にして、コンテナ数も年間4.4万TEU<sup>※1</sup>に達する急増ラインであり、金山スイッチで世界とつながっている。その一方で、道内産業界にとって認知度はまだ低いのが現実である。デリー配船サービスに至っていないことが大きな課題であり、利用者ニーズに応えるには、このほか荷揚げ、蔵置、リーファーコンセン<sup>ト</sup><sup>※2</sup>などの増強は必須要件だ。同時に現状の商社・集荷機能は著しく低い環境であり、片翼飛行を続けているようなものとも思える。▼今、港勢拡大のなかでこの対策に目を背けると、宝の持ち腐れになりかねず、絶対回避しなければならぬ。本年、貿易港としての開港20周年を迎え、市民、企業、団体の協力をいただき、6月の港湾管理者等による記念式に始まり、寺島実郎氏講演会、産業見本市、石狩まるごとフェスタ、パレード、帆船寄港など記念事業の準備が進められている。港湾計画の改定も含め、将来に向け再スタートの年となる。

(市長)

※1 20フィートコンテナ換算

※2 コンテナに電力供給する設備

# 広告